

ご報告

「日本美術に見る動物の姿」展 会期変更のお知らせ

2018年9月13日のプレスリリース（No.2018-017）でお知らせしておりました「日本美術に見る動物の姿」展は、以下の通り会期を変更することとなりましたので、お知らせいたします。

【変更前】 2019年5月5日～7月28日 ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントン DC）
2019年9月8日～12月8日 ロサンゼルス・カウンティ美術館

【変更後】 2019年6月2日～8月18日 ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントン DC）
2019年9月22日～12月8日 ロサンゼルス・カウンティ美術館



本展は、2018年7月～2019年2月のフランスにおける「ジャポニスム 2018」に続き、日本文化を海外に向けて発信する取組みとして米国で実施される「Japan 2019」の一環として開催します。

国際交流基金は、ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントン DC）とロサンゼルス・カウンティ美術館との共催で、「日本美術に見る動物の姿」展を開催します。

人々が動物たちに親しみを持ちながら共に暮らしてきたことを示す豊かな動物表現は、日本文化の一つの特徴として知られており、米国にも多くの愛好者がいます。今回の展覧会は、米国側のキュレーターの発案で、子供から大人まで楽しめる動物づくりの展覧会を通じて、より多くの方々に日本文化に親しんでもらおうと企画されました。

5世紀の埴輪から現代にいたるまで、動物表現に関連した日米の重要なコレクションから、選りすぐりの作品 300点以上を一堂に集め、かつてない規模と内容で展示します。日本人の暮らしや精神風土、宗教観と関わる多彩な動物表現を、絵画、彫刻、漆芸、陶芸、金工、七宝、木版画、染織、写真などさまざまな形で楽しめます。



草間彌生 《SHO-CHAN》
2013年
©YAYOI KUSAMA. Courtesy of Ota Fine Arts Tokyo/Singapore/Shanghai



小澤華嶽 《ちょうちょう躰図屏風》
江戸時代 19世紀
細見美術館



《埴輪犬》
古墳時代 6-7世紀
ミホミュージアム
©山崎兼慈

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

記

- 【会場 1】 2019年6月2日～8月18日 ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントン DC）
【会場 2】 2019年9月22日～12月8日 ロサンゼルス・カウンティ美術館
【主催】 独立行政法人国際交流基金
ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントン DC）
ロサンゼルス・カウンティ美術館
【キュレーター】 ロバート・シンガー（ロサンゼルス・カウンティ美術館日本部門担当）
河合正朝（千葉市美術館館長、慶應義塾大学名誉教授）
【特別協力】 東京国立博物館
【協力】 千葉市美術館、サントリー美術館
【協賛】 全日本空輸株式会社
【共同キュレーター】 浅見龍介（東京国立博物館 学芸企画部企画課長）
荒川正明（学習院大学 教授）
狩野博幸（美術史家、元同志社大学教授）
蔵屋美香（東京国立近代美術館 企画課長）
佐々木康之（サントリー美術館 学芸員）
松尾知子（千葉市美術館 上席学芸員）
丸山伸彦（武蔵大学 教授）
【企画協力】 池田宏（東京国立博物館 名誉館員）
【日本側実行委員】 五十音順、敬称略
安藤裕康（国際交流基金理事長、本展実行委員長）
河合正朝（千葉市美術館館長） *チーフ・キュレーター併任
銭谷眞美（東京国立博物館館長）
鳥井信吾（サントリー美術館館長）

展覧会について

展覧会はテーマ毎に構成され、古墳時代の犬や馬などを表現した埴輪、仏教や神道に関係する宗教的な力を持つ動物たち、人間の身近に生息しながらも超自然的な力を持つにいたった動物などのほか、現代のアーティストによって表現された動物を含め、5, 6世紀から現代美術にいたるまで表情豊かな動物が描かれた作品を展示いたします。獅子や象など、仏教の伝来や交易を通じて遠くインドや中国などから伝えられた元来日本に生息しない動物も含め、時代・ジャンル・メディアを横断し、様々な読み解き方が可能な本展覧会は、日米の双方の専門家の協力を得て開催されます。

以上

広報用画像について

次頁以降に掲載している画像を希望される方は、広報担当までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報および所定のクレジットを必ずご記載ください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、可能な範囲で、出版前に記事校正を広報担当者までお送りいただけますと幸いです。
- ・掲載誌または、掲載記事を広報担当者までお送りください。

出展作品介绍 (一部)



康円《木造騎獅文殊菩薩及脇侍像
(文殊五尊像)》重文
鎌倉時代 文永 10 年 (1273)
東京国立博物館



《八相涅槃図》
享保 12 年 (1727)
名古屋市 西来寺



伊藤若冲《旭日松鶴図》
宝暦 5-6 年 (1755-56) 頃
公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団



《紺紅糸威二枚胴具足》
江戸時代 18 世紀
岡崎市美術博物館

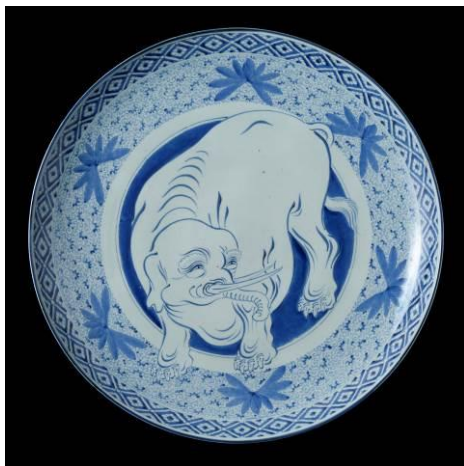
ご報告



《萌葱塩瀬地百鳥文様友禅染打掛》
明治時代 19世紀
京都国立博物館



河鍋曉斎 《惺々狂斎画帖（三）》
明治3年（1870）以前
個人蔵

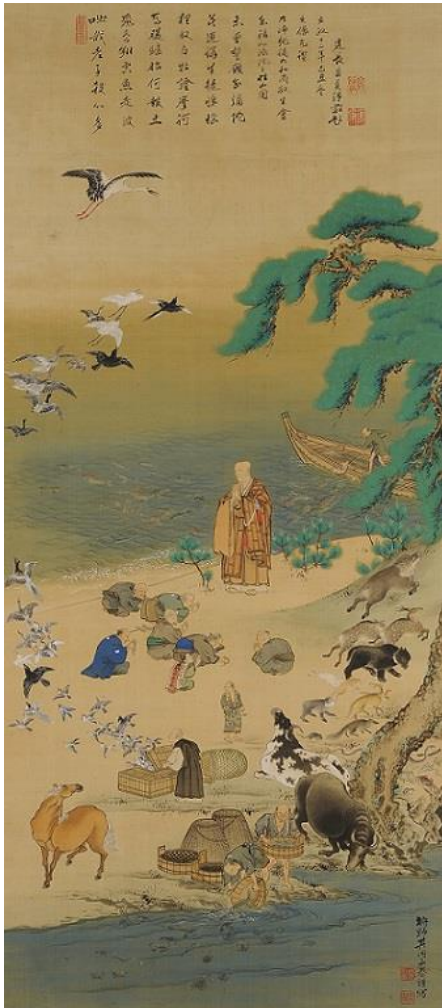


《染付白象文大皿》
太明成化年製
瀬川竹生蔵



《獅子・狛犬》
平安時代 9世紀
Collection of Lynda and Stewart Resnick

ご報告



狩野永泰《放生会》
江戸後期 19世紀前半
個人蔵



深瀬昌久《襟裳岬 (『鴉』シリーズより)》
1976年
Philadelphia Museum of Art: Purchased with funds contributed
by the E. Rhodes and Leona B. Carpenter Foundation, 1990
©Masahisa Fukase Archives